

実習プログラム

社会医療法人財団 慈泉会

部門・部署名	地域在宅医療支援センター 通所リハビリテーションあずみの	プログラムNo.	1
--------	---------------------------------	----------	---

R8.4.1

○印	担当部署区分	部署名
○	単独部署	通所リハビリテーションあずみの
	複数部署	
	協力依頼	

対象者(職種)	理学療法士・作業療法士免許取得見込み学生
---------	----------------------

達成目標	■臨床実習を通じて、地域ケアチームの一員としてチーム医療・ケアの認識を深め、通所リハビリテーションの概念を知る。 ■学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で実践し統合する。 ■リハビリテーション専門職に求められる適切な行動・態度を修得し、与えられた責務を認識する。 ■通所リハビリ対象者に対応した情報収集と、適切な機能検査・測定が行える。 ■得られた情報と評価結果に基づく障害と問題点の構造分析が行え、通所リハビリテーションゴールが設定できる。 ■問題点に対応する適切な評価手技、訪問プログラムおよび訪問リハ計画を立案し、実習指導者の監視下の元に実施出来る。 ■治療経過を記録(デイリー・ノート)に残し、要約を作成し発表出来る。 ■患者、家族およびと良好な人間関係を築き、常に思いやりの心で接することができる。 ■実習担当者、他のスタッフとの報告・連絡・相談が適時行える。
------	--

項目	内容	時間数	実習場所 (担当者)
共通オリエンテーション	実習の心得・感染対策・秘密保持防災関連	40分	主担当部署 (科長)
通所リハビリテーション総論	日本における通所リハの実情及び課題、地域ケアチームの一員としての他職種連携方法について	40分	主担当部署 (科長)
臨床評価実習(前半)	・情報収集、機能評価、治療・訓練(見学)、患者家族指導(見学)	2～5週間	担当部署 (実習担当療法士)
臨床評価実習(後半)	・情報収集、機能評価、治療・訓練(見学)、患者家族指導(見学)	2～5週間	担当部署 (実習担当療法士)
症例発表	担当症例に対する評価、プログラム立案、ゴール設定を行った上で、治療の実践および再評価の結果について、理学療法の問題解決プロセスに従い要約を作成し発表する。	60分	担当部署 (実習担当療法士)
臨床実習自己評価	実習を振り返り、養成校指定評価用紙に基づき自己評価を行なう。	1日間	担当部署 (実習担当療法士)
#臨床実習における研修、見学内容については、養成校より頂戴している冊子を参照。			
実習期間	2～5週間	実習時間合計	90～210時間